



5人の解放を！ 不正に終止符を！

第6回 オルギン会議報告

「第6回5人の英雄の解放を求める反テロ国際会議」はキューバ東部に位置するオルギン州にて11月18日から20日まで3日間の日程で開催され、CUBAPONから1名（村上久美子／福島）が参加しました。

集会前日、早朝6時にハバナのICAP本部に集合し、大型バスを連ね13時間に及ぶ大行軍でオルギン州に向かいました。途中の州のICAP事務所に手作りの昼食が用意されていて、暖かいもてなしを受けました。

オルギンに着く頃はもう暗くなっていましたが、先に到着した一団から「オーレーオレオレオーレー！リベルター・デ・ロス・シンコ（5人の自由を勝ち取ろう！）」と歌とダンスで出迎えを受けました。後でわかったことですが、彼らはアメリカで5人の解放のための活動



会場となったエキスポ・オルギン

している「フリー・ザ・キューバン・ファイブ」のメンバーで、集会会場でもひととき目立って雰囲気盛り上げていました。自国政府が引き起こしている不正義に対し声を挙げる彼らの姿にアメリカという国の幅の広さを感じました。

1日目、エキスポ・オルギンにおいて全体集会が開催され、アランコン人民権力全国会議議長の談話がビデオ上映されました。その中で彼は「5人は無実だ。彼らに何か罪があるとすれば、ただ一つ、祖国を愛しているということだ」と語りました。

キューバ人がキューバを愛し、キューバを守るために行動した、そのことがキューバに敵対心を持つアメリカでは罪に問われるという、この問題の不条理さと本質を的確に示す言葉だと思いました。

午後は地域ごとに分かれての分散会でした。私の分散会はアジア・オセアニア・中東地域で、韓国、イラン、オーストラリア、スリランカ、ベトナムなどからの参加者、それにICAPからアジア・オセアニア担当のリゴベルトさん、家族を代表してアントニオ氏のお姉さんのマルチさんが加わりました。冒頭、リゴベルトさんから、具体的な活動として「アメリカ国内からの抗議が最も有効なので、アメリカにいる友人に積極的に働きかけること」「インターネット、ウェブ、フェイスブック、ツイッターなどの最新技術を活用して5人の解放のための情報を発信すること」が提起されました。



アジア・オセアニア・中東分散会

続いて、マルチさんが「アメリカには自由を保障している憲法がある。アメリカ政府は、その憲法を自ら踏みじり、5人の態度を変えさせようと躍起になっている。ここで行われている活動は5人の一日も早い解放にきつとつながる」と話されました。続いて参加者からの発言があり、中東地域からの参加者から出された「中東地域はイスラエルから日常的に圧力をかけられていて、子どもまでが不当に拘束されている。5人に連帯する活動は自分たちにも力を与えている」との発言がとても印象的でした。確かに不当なことや不正義が世界中で無数に行われているのだらうと思います。そうした中、「5人の英雄」



アントニオ氏の姉・マルチさん

ために世界中で多くの人が立ち上がり声を挙げていること、それだけの活動を組織しているキューバという国の存在に、改めて目を瞠る思いがしました。

翌日は午前中に植林事業が行われ、野原に用意された果樹の苗木を植えました。

午後は専門部会が開かれ、報道部門、法律部門、芸術部門に分かれて討論するということでしたが、私はどの部門にも該当しないので、芸術関係者の討論を傍聴しました。

集会の合間にリゴベルトさんに聞いたことですが、今回のオルギン会議には58カ国から300人以上が参加しましたが、



私が植えた木が丈夫に育つといいな…

第1回の会議の参加者は8カ国、14名だったそうです。それだけでも5人の解放運動が世界中で確実に広まっていることを実感しました。

会場の書籍コーナーで、“穴”と呼ばれる独房でアントニオさんが祖国や家族への想いや闘う決意を綴った詩集を買い求めました。つたない訳ですが、その中から一編を紹介します。

愛しき祖国よ

あなたを想うとき
美しい空のもと
陽気な街角を歩いている気持ちになれる

あの海辺はどんなに僕を楽しませ
平和と癒しを与えてくれたことだろう
星のベールに包まれた夜の海辺
今もあの日のまま目の前に見ることが出来る

親愛なるすばらしき人々
魅了してやまぬ僕のふるさと
あなたは誠実な証人
僕がどんなに幸せに生きてきたか
あなたは雄弁に物語る

残虐な仕打ちを受けている今このときさえ
あなたの大きい面影が
より強く僕の心をとらえる

アントニオ・ゲレロ



.....

世界に広がる「連帯の力」を実感～オルギン会議に参加して～

村上久美子（福島）

全体集会や分散会での議論や発言に限らず、バス移動や会場のロビーで合間に交わされる会話もまた意義深いものがある。

休憩時間に、私に話しかけたそうにしている人にこちらから「Hola」と声をかけると「数年前、フィデルの80オバースディイベントにも参加したが、そこに2人の若い日本の女の子がいたのだが…」と言う。それで思い出した。スペイン語の理解がイマイチで、よく集合時間に遅れてバスに乗り損なっていた、あのカナダ人だ。

「それ、私よ！」

「わお、わお、わお！」

4年ぶりの再会である。今回も言葉で難儀していたようだが、それでも懲りずにやってきた「カナダじいさん」の情熱に敬意を表して熱烈なアブラソ&ベシトを交わした。

ニューヨークから来たというジェームズはキューバ人の祖父を持つアメリカ人でスペイン語も堪能。「僕はジェームズ。スペイン語読みならハイメだ」とスマートに自己紹介した。昼食どきで、会場のレストランにキューバの国民的シンガー、シルビオ・ロドリゲスがBGMで流れていた。数ヶ月前、シルビオがアメリカでコンサートツアーを行った折、ステージから「ノーベル平和賞受賞者のオバマ大統領。5人を返してくれ」と呼びかけたというニュースを思い出して、「あなたもシルビオのコンサートに行った？」と聞いてみた。

「もちろん」とジェームズが言う。「フリー・ザ・キューバン・ファイブの仲間と一緒に客席で5人の横断幕を掲げたんだ。そしたら、シルビオがステージから僕たちに手をさしのべ連帯のジェスチャーをして、それからあの発言をしたんだよ」。

ジェームズの行動がシルビオに伝播し、シルビオの行動がニュースとなって、日本で私がキャッチしたというわけだ。

世界各地から一つの目的、「5人の解放」のためにキューバに集まった人たちと交流していると、時間も距離も、点ではなく“面”で繋がっていることを実感する。こうした繋がりが、アメリカが5人に対して行っている不正義のみならず、世界のあらゆる不正義を包囲する力になっていくように思えるのは、楽観的に過ぎるだろうか。



4年ぶりに再会したカナダじいさん



最後になりますが、こうした貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

世界中に広がっている「5人の英雄」の解放運動に確信を持って、「アメリカに囚われている五人のキューバ人の解放を求める日本百人委員会」の活動を進めなければならないとの思いを改めて強くしました。

アメリカに囚われている5人の政治囚を直ちに解放せよ！

「キューバに防衛する権利はあるか？」

キューバ人民共和国は、他国を侵略したり、他国の人民に対しテロ行為を企てたり、他国の主権を侵害したりしたことは一度もありません。しかしながらキューバには、世界中のいかなる国と同様、自国を防衛する権利があります。

「何からキューバを守るのか？」

革命勝利以降、キューバは、アメリカ合衆国によるキューバ人民を圧殺しようとする企てを受け続けてきました。そうした敵対的な企ての一つとしてよく知られている経済封鎖は、アメリカの敵国に対する経済措置として合衆国の法律に基づいて行われており、これまで7兆5,130億ドルにものぼる経済打撃を我が国に与えてきました。しかし、キューバ人民が直面している問題は経済のみに限りません。50年以上にわたりキューバは、1961年のアメリカによるプーヤ・ヒロン侵略のような軍事侵攻や、アメリカ合衆国に組織され、あるいは支援されたあらゆるテロにさらされてきました。これらの残虐なテロ行為の一つとして、73人の乗客が乗ったクバナ航空機がバルバドス海峡において撃墜された事件があります。キューバは自国の主権を守るために大きな犠牲を払ってきました。今日に至るまで、アメリカ合衆国とその地で行動を展開している極右テロ集団はキューバに対し700件以上のテロ行為を行い、それによって約3,500人の死者と2,100人の負傷者が出ています。

「5人はアメリカ合衆国で何をしていたのか？」

祖国を滅亡から守っていました。ヘラルド、レネ、フェルナンド、ラモン、アントニオの5人はマイアミのテロリスト集団に潜伏し、新たに企てられるテロ計画をアメリカ国内からキューバに報告する活動をしていました。実際に、彼らの活動は幾つかのテロ行為を未然に防ぎ、罪のない命を死から救ったのです。

「5人はアメリカ合衆国をスパイしていたのか？」

していません。5人はいかなるときも合衆国政府が規定している機密文書を収集したり持ち出したことはありません。彼らの行動はあくまでも、アメリカ合衆国の亡命グループによって組織されている極右テロ集団のテロ行為を報告する活動に限られていました。

キューバ政府は、反テロリズムの立場でこうした反キューバテロに対してアメリカ合衆国と共同で取り組もうと、テロ集団によるテロの計画を公式的なルートでFBIに報告しました。合衆国政府はどんな対応をしたのでしょうか？その報告をした人々を捕らえ収監したのです。これが1998年9月12日、5人の反テロリズムのキューバ人闘士に対して行われたことです。

「5人のキューバ人は何の罪で告発されたのか？」

何らかの不法行為に関わった証拠がまったく欠ける中で、彼らに対しでっち上げによる政治的、専横的性格を帯びた裁判が行われ、スパイを企てた罪をかぶせられました。また、ヘラルドの場合は、殺人未遂の罪も問われています。

こうした中、国連では彼らの不当な拘束について調査を行い、5人の自由を奪うことは不当であり市民的政治的権利を定めた国連法14条に抵触するとしました(2005年5月27日)。同年8月9日、

アトランタ裁判所第11法廷で開かれた裁判において公正に選出された陪審員により5人の件で有罪判決が出されました。それからすぐに、陪審員裁判のさなか数ヶ月にわたって合衆国政府が何人かの新聞記者にお金を渡して膨大な記事による世論操作と陪審員の判決の誘導が行われたことが露呈しました。何ら有罪の余地のないこの事件に対して多くの圧力と恐怖が植え付けられたのです。

さらにひどいことに、5人は数ヶ月にわたって疑いなく最悪な監獄に送られ、個別の懲罰房に閉じこめられていました。また、家族と面談する権利も奪われ、合衆国自身が定めている法に基づき通常許されている連絡もとれない状態に置かれました。ヘラルドの妻アドリアナと、レネの妻オルガへのビザ発給は拒絶され、彼女たちは、彼らが収監されて以降12年もの間、一度も夫に会うことが出来ないでいます。5人と同様、彼らの家族の権利も侵害されているのです。

「何年の懲役刑か？」

1998年9月12日以降、5人は自由を奪われた状態に置かれています。合衆国の定めた刑期によれば、彼らの出獄は以下の通りです。

レネは2011年10月7日、フェルナンドは2014年2月27日、アントニオは2017年9月18日、ラモンは2024年10月30日、ヘラルドは2度の終身刑に15年を加えた懲役刑となっています。

「合衆国は自らの法を犯し、国際世論を無視している」

彼らの拘束以来、一貫して自らの法を犯し、また5人のケースでは国連の拘束に関する機関の提言を無視し国際法の中でも最も基本的な権利をも侵害しています。同時に、合衆国は多くの国々の法律専門家（裁判官、判事、弁護士、検事、大学教授など）や、この事件やアメリカの法廷で露呈した事実に関し不当性を訴えている法律に関わる人々の意見に耳を貸しません。

「自ら輝く光はいかなる者にも消せない」

キューバ革命政権に敵対する日常的なメディア操作にも関わらず、全世界の多くの国々に5人の解放を求める委員会が組織されています。何百万人もの労働者、芸術家、10人のノーベル文化賞受賞者を含む作家、法律家、多くの国の国会議員、連帯組織の活動家、人権活動家、労働組合、政党、さらにはアムネスティも5人の解放を訴え、合衆国政府の反テロリズムの取り組みや政治体質の欺瞞性を告発しています。

5人は、合衆国の国内で企てられているテロから祖国キューバを守ったために、唯一その罪を問われて囚われの身となっています。彼らは、愛他的精神と国を愛する心をもって多くの犠牲を払ってキューバ人民を守ることに力を注いできたのです。5人の解放委員会はこの事件の真実を人々に広めることを呼びかけます。すべての分野において合衆国の専横と欺瞞を告発するとともに、EUとスペイン政府に対しこの問題について意思表示するよう要請し、5人の解放を求め続けます。

オバマ大統領は5人の中のただ1人でも収監されている間は、その解放を求める世界的な叫びが強まっていくことに気づくべきです。なぜなら世界の人々は5人の自由を守ることがすべての人々の人権を守ることにつながることに気づいているからです。赦免と早急な解決は彼にゆだねられています。私たちにできることは、5人の自由のためにたゆまず闘い続けることです。何の制約もない自由の日を迎えるまで。

5人の解放を求める委員会